

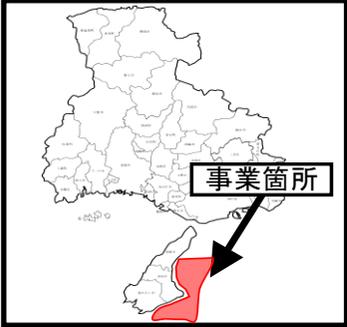
令和7年度新規事業評価調書

【漁場整備事業〔東浦地区〕】

農林水産部水産漁港課

# 漁場整備事業 東浦地区

位置図



目的

沿岸適地に増殖場を造成することにより、当地区の漁船漁業の主要漁獲対象魚種である、キジハタ、メバルをはじめとする岩礁性魚類の保護育成を図るとともに、沖合域にアジやマダイなど回遊魚への蜻集効果の高い魚礁漁場を整備することで、水産資源の増大と漁場拡大による生産量の増大を図る。

事業概要

事業箇所：(1) 洲本市炬口地先  
 (2) 淡路市津名地先  
 (3) 洲本市由良地先

事業期間：R8～R12

総事業費：5億円

事業概要：(1) 洲本漁場（増殖場1箇所 約3ha）  
 (2) 津名漁場（魚礁2箇所約6,250空<sup>3</sup>）  
 (3) 由良漁場（魚礁2箇所約6,250空<sup>3</sup>）

費用便益比：B/C:1.09

負担割合：国1/2、県1/2

工程表

工区	R8	R9	R10	R11	R12
洲本漁場					■
津名漁場	■		■		
由良漁場		■		■	

事業の必要性・優先性

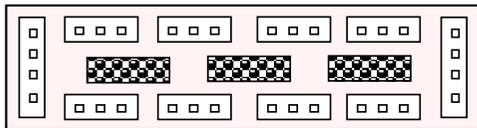
- ① 当地区は、小型底びき網漁業や刺網漁業などの漁船漁業やノリ養殖業が盛んに営まれ、水産業が基幹産業のひとつになっているが、自然海岸や藻場の減少といった沿岸環境の変化や栄養塩の低下により海域の生産力が低下し、水産資源が減少している。
- ② 本事業では、沿岸部の適地に増殖場を造成することによりキジハタをはじめとする岩礁性魚類の保護育成を図るとともに、沖合域にアジやマダイなど回遊魚への蛸集効果の高い魚礁漁場を整備することで、水産資源と漁業生産を増大させることを目的としており、当海域の水産資源の底上げと漁業生産の安定を図るうえで必要である。
- ③ 本事業の効果は大阪湾海域の広範に波及すること、餌料培養効果の高い構造物の設置により海域の生産力の向上が見込まれることから事業の優先性は高いと判断される。

	現況	計画
生産量	2,899トン	2,945トン
生産金額	2,010百万円	2,043百万円

造成手法

- ◆増殖場（岩礁性魚類の産卵場及び稚魚の保護・育成）  
投石（自然石）と鋼製餌料培養礁（構造物）等を組み合わせて変化に富む磯を造成

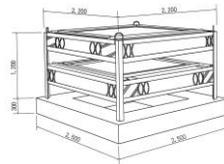
【配置・構造物のイメージ】



【凡例】 : 投石帯 : 構造物帯



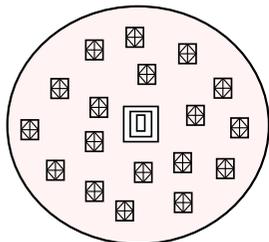
投石



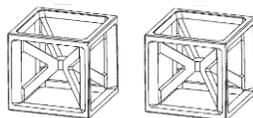
鋼製餌料培養礁

- ◆魚礁漁場（岩礁性魚類の親魚保護及び回遊性魚類の蛸集）  
・保護育成機能を持つ組立魚礁（大型礁）と構造物が複雑な小型礁を組み合わせて面的に漁場を造成

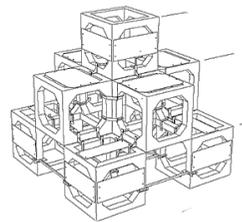
【配置・構造物のイメージ】



【凡例】 : 大型礁 : 小型礁



小型礁



大型礁

期待される効果

増殖場

- ①水産生物の産卵場や育成場となっている岩礁域や藻場の造成
- ②幼稚魚、未成魚の保護・育成による資源の増大



投石帯に繁茂する藻類



投石帯に集まるキジハタ・メバル



鋼製餌料培養礁に集まるメバルの稚魚

魚礁漁場

- ①岩礁性魚類の親魚保護
- ②回遊性魚類蛸集効果による漁獲の効率化



コンクリート魚礁内部に集まるメバルの親魚



コンクリート魚礁内部に集まるマアジ

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

①便益 (B)の項目

評価の視点	効果項目 (費用対効果の便益内容)
漁場整備による資源増大効果	造成した増殖場で保護された対象魚種の幼稚魚が、成長後に漁獲されることによる効果 (1.1百万円/年)
	造成した魚礁漁場に魚介類が蝟集し、漁獲されることによる効果 (13.9百万円/年)
出荷過程における流通業に対する効果	漁場整備により増産された漁獲物により、消費地市場へ持ち込まれる間の流通業者の利益増となる効果 (13.1百万円/年)

②費用便益比 (B/C)算出根拠

B (便益)		C (費用)			B/C
便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
漁獲可能資源の維持・培養効果	234.3	404.7	404.7	0	1.09
漁業外産業への効果	205.7				
計	440.0				

(2)費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
<p>作業コストの削減</p>	<p>漁場探索にかかる燃油削減効果</p>	○	<p>好漁場は限られており、漁場探索に多くの時間を要するが、根拠港に近接して魚礁漁場を整備することにより、漁場移動に要する時間と燃油の削減が図られ、効率的操業が可能となる。</p>
<p>資源解析データが不詳な水産資源の増大</p>	<p>漁獲量の増大効果</p>	○	<p>当該事業で造成する増殖場の効果は、資源解析データが整っているキジハタ、メバル、カサゴ、カレイ類、マダイについてのみ効果算定を行っているが、実際には、資源解析データが整っていないメジナやアオリイカ等の産卵場や幼稚魚育成の場としても機能する。</p>

(3)地域からの要望状況等

<p>要望状況</p>	<p>当該海域では、地域の主な漁業種類である小型底びき網漁業の対象魚種の資源量の低下から漁場整備について強い要望がある。 このたび、洲本炬口、由良町、津名の各漁業協同組合の沿岸漁業者から増殖場造成並びに魚礁設置の強い要望があり、またこれら3漁協を中心に周辺漁業協同組合との調整が進められた結果、淡路島東岸の漁業協同組合で構成する東浦水交会として事業実施要望があったものである。</p>
-------------	--